１１	海部	蟹江町立新蟹江小学校	オグラ　マコト 名前　小　倉　真

分科会番号	２０	分科会名	総合学習

研究題目　　学びを生かして、自らの生活を切り拓く子ども
―　人・もの・こととの関わりから　つながり・広がる活動を通して　―

研究要項

１　研究のねらい

現代の日本では、様々な食文化が身の周りにある。手軽に手にできるファストフードや、国や文化を越えた食べ物を気軽に楽しむことができる。一方、食料自給率の低さや食品廃棄率の高さ、偏った食生活による生活習慣病患者の増加など、様々な課題を抱えている。また外国では、国や地域によって食料供給率の偏りがあったり、貧困問題によって十分な栄養を摂取できない子どもがいたりするなど、世界的に見ても食に関する課題は多岐に渡る。

本校では、９年間、「学びを生かして、自らの生活を切り拓く子ども　― 人・もの・こととの関わりから　つながり・広がる活動を通して ―」をテーマとして、１～２年生は生活科、３～６年生は総合的な学習の時間を中心に研究を進めてきた。昨年度から、感染症対策の制限がなくなり、交流活動や調理実習など、異学年交流や地域交流、企業による出前授業をより充実させることができるようになってきた。

今年度は５年生を対象として、「実（みのり）― 実行・実現・実感 ―」をテーマに、「食」に目を向け、活動を実践していく。日本や世界の現状を知る学習を通して、自分たちの日常生活や地域における課題をつかみ、自分自身の生き方と結びつけて課題解決を目指し、探究することのできる子どもを育てていきたい。児童１人１人が主体となって考えられる課題を見つけて、よりよい未来をつくるためにできることを考え行動し、学びをさらに深めていく。そして今後の生活において、学習を通して見出した自分なりの心掛けや取組を続けていこうとする気持ちを育むことを目指していく。

２　研究の仮説と方法

(1) 研究仮説

目指す児童像を次のように掲げ、研究のねらいをもとに研究仮説を設定した。

- １人１人が個人の目標をもって課題に取り組み（個別最適な学び）、他者と協働しながら多様な考えを受け入れ（協働的な学び）、活動・改善を繰り返し一体的に充実させ、自己効力感（自分の学び）を高めることのできる児童
- 「人・もの・こと」との出会いを通して食への興味・関心を高め、発見した課題を自らの生き方と結びつけて考え、探究できる児童

（仮説１）　自己の目標を明確化し（個別最適な学び）、課題の共有や話し合いと探究を繰り返し、学びの振り返りや共有の場面を設定することで（協働的な学び）、より良い自己の生き方を選択できるようになるであろう。

（仮説２）　「人・もの・こと」と関わる場や自身の生活と発見した課題とを重ねて考えられる体験的な教材・課題を設定することで、自らの生き方を見つめ、意欲的に行動できるであろう。

(2) 研究の方法

仮説１に対しての手だて

手だて①　食についての課題を見つけるためのワークショップや、目標達成のための思考を促すマンダラチャートを用いたワークシートの活用

手だて②　調べ学習や発表を目的としたＩＣＴの積極的な活用や個々の進捗状況を一覧できる掲示板、見通しをもつための年間計画表、他の児童からの意見をまとめるワークシートの工夫

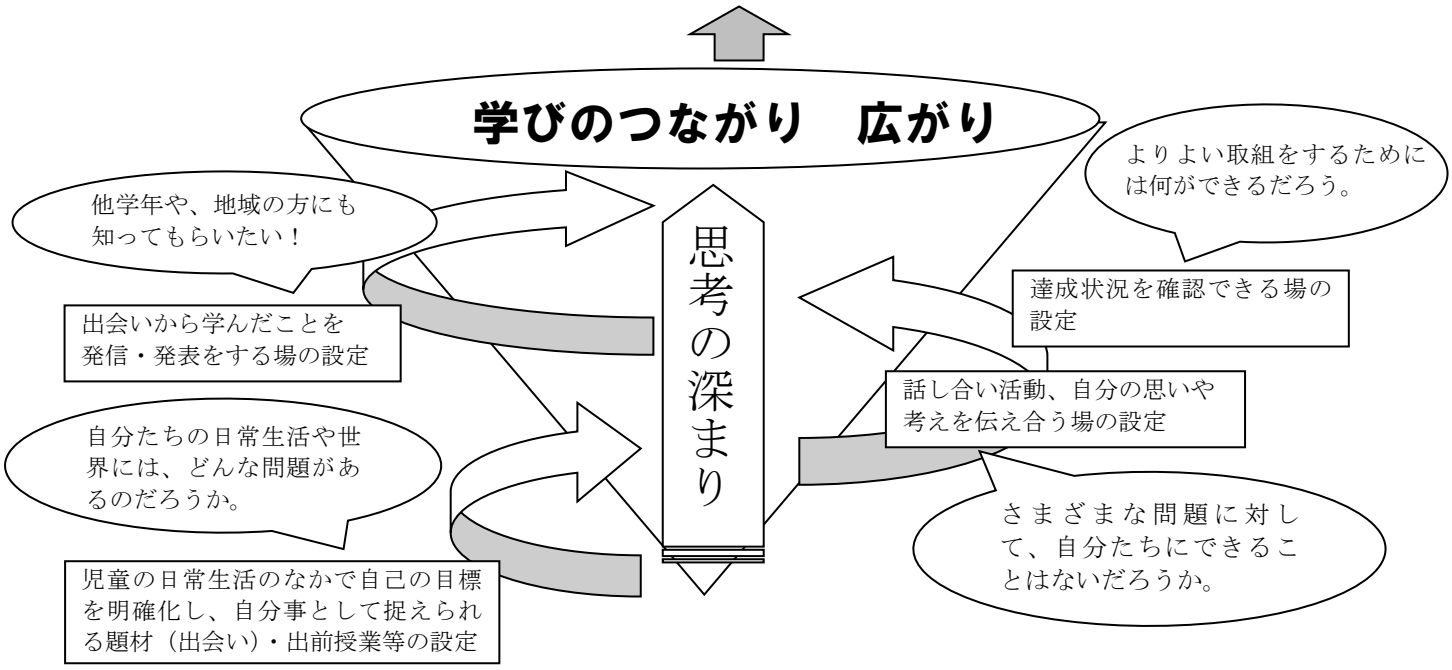
仮説２に対しての手だて

手だて③　異学年や地域など、他者と交流する場面の設定

手だて④　日本や世界の社会の現状を体験的に学ぶことができる題材（出会い）・出前授業の設定

(3) 研究の構想

未来に向けて、持続可能な社会づくりに関わる児童	
設定した課題を自分事として捉え、やり遂げることで達成感を覚え、自分の学びを高められる児童	「人・もの・こと」との出会いを通して、興味・関心を高め、自らの生き方と結びつけて考え、探究できる児童



3　研究実践計画（５年生）

月	活動名	活動内容
4	○　総合開き（オリエンテーション）	・　食について知っていることの意見交流をする。 ・　児童の興味関心に合わせて、食について学んでいきたいことの見通しをもつ。
5	○　出前授業「野菜の栽培の仕方」（ＪＡあいち海部） ○　出前授業「希望のチョコレート」（明治） ○　出前授業「カルビースナックスクール」（カルビー） ○　「輝け、食の未来」プロジェクト	・　野菜の栽培方法を学び、苗植えをする。 ・　チョコレートのでき方と、原料カカオの原産国ガーナの生活状況や貧困問題について知る。 ・　おやつのメリットや、カロリー数から見る１日の適切な量を学び、適切な間食の摂り方を知る。 ・　個人の課題を捉え、探究を進める。
6	○　出前授業「和食とは何か?だしとは何か?」（和食文化国民会議） ○　出前授業「もったいないを考えよう」（コープあいち）	・　出汁や和食文化について知る。 ・　ＳＤＧｓの観点から、食品ロスの現状と消費者ができることについて知る。
7	○　１学期を振り返ろう ○　夏休み中にできることを考えよう	・　１学期の活動を振り返る。 ・　夏休みを利用した調べ学習や見学、調理、インタビューなどを計画する。
8	○　夏休み中にできることを実践しよう	・　計画したことを実践する。 ・　実践をタブレット端末にまとめる。
9 10 11	○　個人のプロジェクトを実践しよう ○　活動から分かったことをまとめよう	・　１学期と夏休みの活動をもとに、自分が実践したい内容や時期を決め、実践する。 ・　活動を通して分かったことや考察したこと、これからの取組についてまとめる。
12	○　新蟹っ子発表会 ○　２学期の活動を振り返ろう	・　１年間の学びをまとめ、協力してくれた方への活動報告と参加への感謝を伝える。 ・　４年生や保護者に発表する。 ・　活動を振り返り、次の活動につなげる。
1 2	○　３学期に取り組みたいことを考えよう	・　これまでの活動をもとに、各自で続けていきたいことを考える。
3	○　今後の自分について考えよう	・　これからの生活の中で、自分が意識していきたいことを考える。

4　研究対象

５年生２学級　38 名（男子 15 名、女子 23 名）

5　研究の実際

(1) 食についての課題をもち、必要な知識を得る。

活動内容とねらい	児童の様子と成果
【総合開き】 「食」を中心とした学びのテーマをグループで出し合い、自分が進めていきたいテーマを見つける。（４月）	**手だて①　学びの題材との出会い** 総合開きでは、グループに分かれて「食」に関連するキーワードをマインドマップ形式で出し合った。その後、現時点で自分が学んでいきたいことの見通しをもたせた。学びのテーマは児童が関心の高いものとし、活動の途中でもテーマの変更や修正は可能とし、児童が学習する道筋を柔軟に調整できるようにした。また、児童が選んだテーマに合う知識を身に付けさせる目的で、どんな出前授業を受けたいかのアンケートを取った。アンケート結果を基に、野菜の栽培（ＪＡ）、チョコレート生産と貧困問題（明治）、おやつのとり方（カルビー）、和食と出汁（和食文化国民会議）、食品ロスと世界の食糧問題（コープあいち）の視点で出前授業を設定した。児童の関心度が高い出前授業を設定したことで、質問したいことを考えたり、授業を受ける視点を自らもたせたりすることができた。
【野菜の栽培の仕方ーＪＡあいち海部　出前授業ー】 ＪＡ職員の方に夏野菜の植え方を学び、自分たちで栽培していくための知識を身に付ける。また、害虫や病気とその対策方法を知り、健康でおいしい野菜を育てられるようにする。（５月）	**手だて③④　学びの題材との出会い『野菜の栽培』** ＪＡあいち海部の職員を招き、野菜の植え方と栽培方法について学んだ。ピーマン、トマト、オクラの植え方を知り、児童が実際に植えた。それぞれの野菜の栽培方法について詳しく知ることができ、今後野菜を活用していこうとする児童にとっては、大切な知識を身に付けることができた。質問タイムでは、害虫や感染しやすい病気と、それらの対策方法を知ることができた。野菜は当番制で水やりや草取りをすることで、「みんなで育てる」という意識をもつことができた。
【希望のチョコレートー明治 出前授業ー】 チョコレートの原料であるカカオや、その生産国ガーナが直面している貧困問題、ブラジルの森林破壊問題について知り、自分たちにできることを考える。（５月）	**手だて④　学びの題材との出会い『貧困問題と国際理解』** 身近に口にしているチョコレートの原料がカカオの実であることを学び、カカオの原産国ガーナが直面している貧困問題を知った。ガーナでは、子どもたちが家の手伝いや仕事をしなければならないために、充分な教育を受けられないこと、国内のインフラ整備が充分でなく、安全な飲み水も十分に確保されていないことなど、様々な問題を知ることができた。先進国に住む我々の生活においても、日頃からどんなことに取り組めるかについて考えた。ガーナの現状を知ることで、昨年度までに学習してきたＳＤＧｓの視点から、節水を心掛けることや、募金活動によって経済的に支援をすることなど、児童が自分事として捉えながら解決策や意見を話し合うことができた。また、ガーナの現状を世間にも知ってもらいたいと考える児童も見られ、国境を越えた貧困問題についての理解を深めることができた。 ガーナのお医者さんは、対人口あたり日本の 33 分の１の数しかいません。 水やエネルギーを無駄遣いしないように気を付けます！

【カルビースナックスクール－カルビー 出前授業－】

おやつが心と体に栄養を与えることを知り、１日の適切なおやつの量について、カロリー数をもとにして学ぶ。おやつを適切に摂ることを学ぶ。（５月）

手だて④　学びの題材との出会い『おやつの良さ』

おやつが心と体にもたらすメリットや、小学生にとって１日に適したおやつの量について学ぶことができた。まずは、事前のアンケートから児童のおやつに対する意識や摂り方についての実態を掴んだ。授業の冒頭ではポテトチップスを例に、１日の適したおやつの量がどれだけかをグループごとに考えた。その後、１日 200 ㎉以内に収めた場合のポテトチップスを皿に盛りつけて、量を体感した。おやつを食べすぎた場合には運動や勉強をしてカロリーを消費することができることも学んだ。ポテトチップスの他にも、アイスクリームやチョコレート菓子のカロリーを考えたり、お菓子をカロリー順にランキング付けをしたりした。おやつを摂取することで、１日に必要なエネルギーを補えたり、食べる喜びが得られたりすることができることを学んだ。「おやつにもいいところがある」「１日 200 ㎉以内におさえておやつを摂るようにしたい」といった意見が挙がり、おやつへの新しい視点と肯定的な面を知ることができた。

200 ㎉というと、このくらいの量かな？

一番多いグループと一番少ないグループを比べてみましょう

アイスクリームのカロリーはどれくらいなんだろう・・・

【和食とは何か？出汁とは何か？－和食文化国民会議 出前授業－】

和食と呼ばれる料理の定義や特徴、和食離れと食の欧米化について知る。

出汁の試飲を通して、砂糖や油を使わずに得られる「うまみ」の良さを知る。（６月）

手だて④　学びの題材との出会い『和食と出汁』

講師による「和食をもっと食べましょう」の一言から始まった出前授業では、愛知調理専門学校より料理職人を招き、和食の定義や現状問題、出汁の良さを学んだ。和食という言葉は知っているものの、白米を主食とし、出汁を使った料理であることが和食であることを知る児童はほとんどいなかった。職人の話から、昨今の日本では、食の欧米化が進み、白米の消費量が年々減少し肉の消費量が増加していることから、日本人の和食離れが進んでいることを知った。和食離れが進むことで、出汁をとる習慣が減り、和食文化が失われていくことに、危機感をもって聞くことができた。その後児童たちは、職人が実際に昆布と鰹節から出汁を取る様子を見学した。取った出汁を試飲し、香りの良さを感じながら甘みやうまみも味わうことで、出汁の素晴らしさを体感することができた。この授業をきっかけに、和食や出汁に対する関心が高まった児童が多く見られ、週末に和食作りをしたり、出汁を使った簡単な料理に挑戦したりした児童もいた。

鰹節と昆布から出汁を取ります
日本の食文化ならではです

こんなにおいしいんだね！！

出汁を取った後も、細かく刻んで料理に使えますよ

【もったいないを考えよう－コープあいち 出前授業－】

世界の食糧問題について理解し、主要国の食料供給量の差を実感する。

日本の食品ロスの現状を知り、自分たちにできることを考える。（６月）

手だて④　学びの題材との出会い『世界の食糧問題』

給食を例に、様々な食材から食品を作ったり、消費したりする過程を学んだ。さらに世界に目を向け、アフリカ、アジア、南アメリカ、先進国の４つの国地域の食料供給率について話し合った。４つの地域の人口比率に合わせて児童全員をグループ分けし、人口あたりの食料供給率について、カラーボール１つ分を１人分の食料として換算し分配した。先進国では、１人当たり２つほどのボールを貰える一方、アフリカでは４人に１つのボールしか貰えず、食料が不十分な地域があることを体感した。食料が足りない地域は、他の地域から奪おうとする戦争問題を心配する児童もいれば、先進国が開発途上国に食料を分けることを提案する児童も見られた。その後、先進国である日本の年間食品廃棄量を知り、国民が毎日おにぎり１つ分を捨てていることを学んだ。授業の最後には、「お残しをしない」「必要な分しか食べ物を取らない」など、児童自身ができることを考え、発表し合った。世界の食料供給率の偏りを知り、身の回りの食品廃棄を減らしたいという意識をもたせることができた。

先進国でない地域は、かなり食料が少ないね・・・。

これからは食べ物を
大切にしていきたいです！

(2) これから探究したいことを決め、知識を深める。

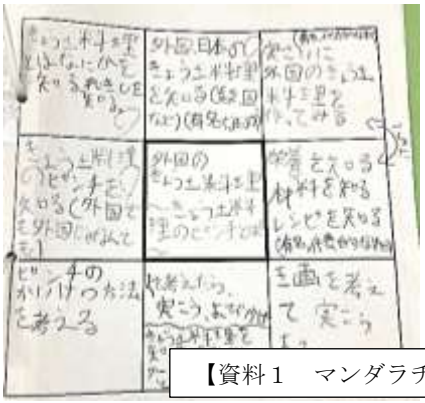
【輝け！食の未来プロジェクト】

これまでの経験と出前授業で得た学びを総合し、今年度に探究したい課題を決める。

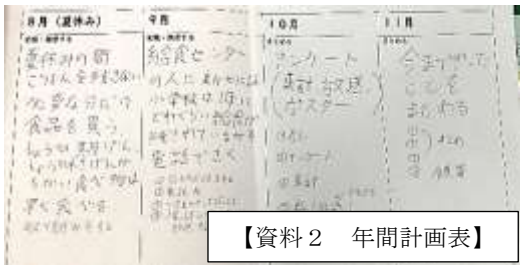
自分の探究活動の年間計画を立てる。（５月）

手だて①②　課題を掴み、計画を立てる

出前授業で得た知識や現状問題をもとに、自分が取り組みたいテーマをマンダラチャート【資料１】の中心に書き込んだ。その後、中心のテーマをゴールとし、それを達成するための方法（調べ学習、調査、調理など）を周囲のマスに書き込んだ。マンダラチャートを用いてゴールまでの道筋を明らかにすることで、児童は自分の課題を見失わずに、優先順位をつけて活動に取り組めると考えた。中にはマンダラチャートがすべて埋まらない児童もいたが、「アドバイスタイム」を設けて友達の意見を聞いたり、同じような取り組みをしている児童からアイデアを貰ったりすることで、自分のマンダラチャートを充実させることができた。その後、12 月までの年間計画表【資料２】に、自分が取り組む活動の予定を具体的に記入し、見通しをもたせた。１学期中にアンケート調査を予定し、夏休みに家庭で取り組みたい調査活動や調理の試みなどを考えることで、活動の優先順位を決めることができた。また、授業後もマンダラチャートや計画表を修正したり、書き加えたりする様子も見られた。



【資料１　マンダラチャート】



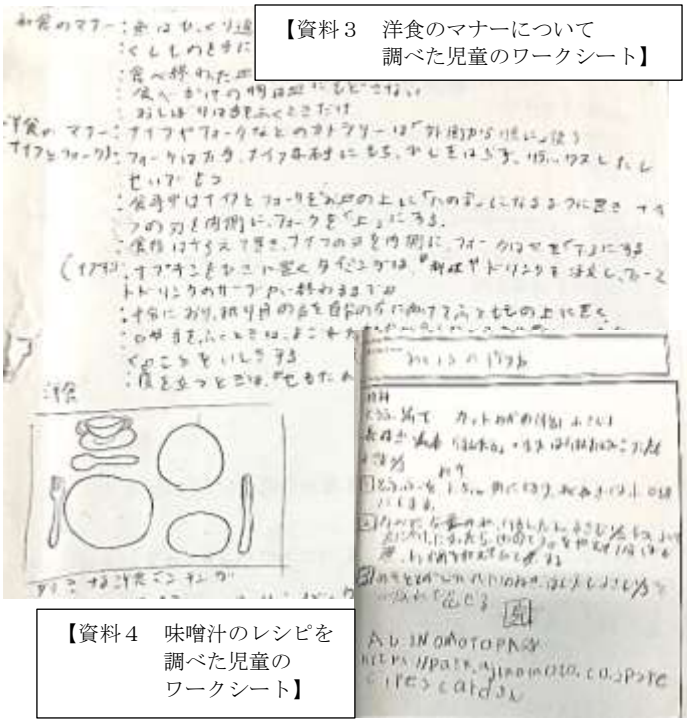
【資料２　年間計画表】

【調べ学習】

本やインターネットを使って、テーマに応じた調べ学習を行う。（６月～７月）

手だて②　タブレット端末や地域の図書館の図書を利用した調べ学習

マンダラチャートのテーマに合わせて、知識を深めたいことをタブレット端末や図書を利用して調べ学習を行った。インターネットは幅広い知識を得られる一方、情報があいまいであることが多い。そこで、地域の図書館より食に関する本を借り、タブレット端末と併用して調べ学習をした。和食の成り立ちや配膳のきまり（和食文化をテーマとした児童）、とうもろこしの栄養価や育て方（とうもろこしは主食になりえるかをテーマとした児童）、各都道府県の郷土料理（日本の郷土料理をテーマとした児童）などをプリントにまとめたり、実際のレシピをインターネットで調べたり、動画視聴サイトで分かりやすい解説動画を視聴してメモを取ったりした【資料３・４】。また児童は、発表ノート（デジタル学習ツール）やプレゼンテーションソフト、文書作成ソフトの操作や編集にも長けているため、それらにまとめている児童もいた。



【資料３　洋食のマナーについて調べた児童のワークシート】

【資料４　味噌汁のレシピを調べた児童のワークシート】

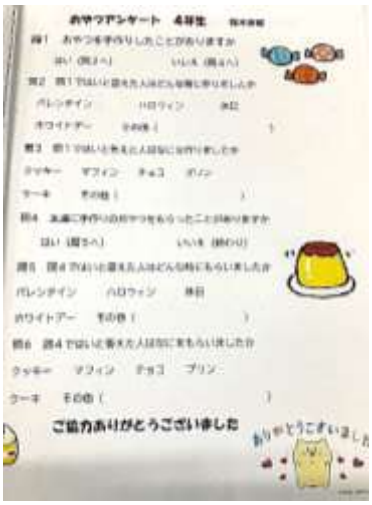
【アンケート調査】

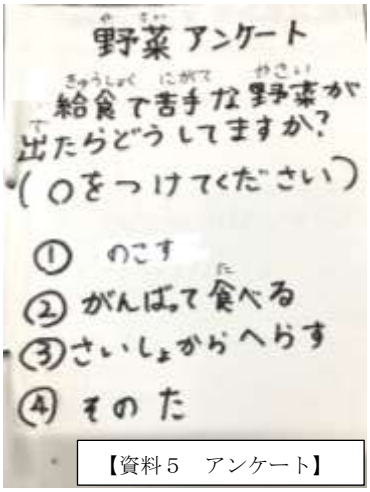
異学年へのアンケート調査を通して実態を知る。

（７月）

手だて③　異学年との交流

全校の意識調査のため、一部の児童は自分のテーマにもとづいてアンケート調査【資料５】を実践した。おやつを何時にどのくらい食べているのか、食事のマナーをいくつ知っているかなどを質問し、今後の活動の根拠とした。質問を考えるときに、今後の自分の課題解決につながりやすい質問を考えたり、選択式にして統計を取りやすくする工夫をするようにさせたりした。結果を２学期初めに共有し、活動に活かしていきたい。





【資料５　アンケート】

【夏野菜でピザパーティー－２年生との交流－】
５年生が収穫した夏野菜を使ってピザパーティーを開催し、２年生を招待する。
（７月）

手だて③　異学年との交流
５月に植えた野菜が大きく成長し、収穫の時期を迎えた。２年生は５月に、５年生との交流活動でトマトの苗植えを行った。一部には、全校が野菜を好きになってほしいという課題をもって活動をしている児童もおり、「野菜をおいしく食べてもらえる活動をしたい」という声が挙がった。そこで、５年生が栽培した夏野菜を使ってピザパーティーを企画し、２年生を招待して交流活動を行った。家庭科で学習した包丁や火の取り扱いを５年生が行い、２年生とペアを組んで、ピザのトッピングや調理を行った。トッピングの仕方や使われている野菜について、優しく教えることができた。

ソース作りは５年生が行いました！

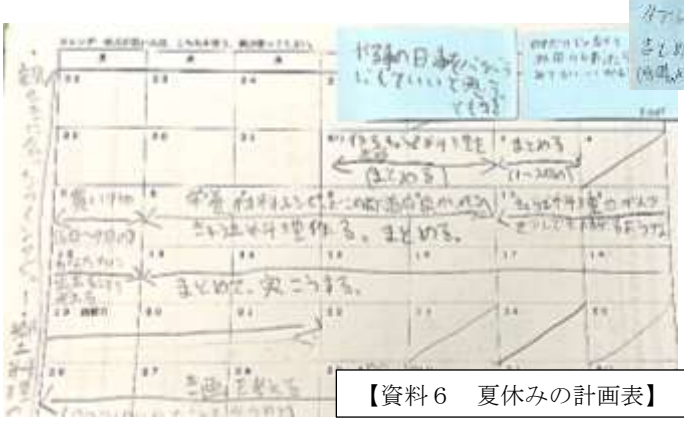
こげないようにていねいに焼きます

野菜がおいしい！！

(3)　２学期を見通して、夏休みの活動をよりよくする方法を考える。

【夏休みの計画を立てる】
２学期の活動を見据えて、マンダラチャートをもとに家庭でできることを考えて計画する。（７月）

手だて①②　夏休みの計画表の作成、アドバイスタイムによる計画表の充実
出前授業や調べ学習を通して得た知識や疑問、自分の活動を２学期に繋げるために、夏休みに取り組んでおきたいことを考えた。例えば、家庭での調理や、校区を離れた資料館や図書館での調べ学習、工場見学や多文化社会を学習できる施設の利用など、児童それぞれのテーマに応じて計画表【資料６】に書き込んだ。計画表は２種類用意し、日付と曜日を明記したカレンダー形式と、おおよその月のみを書いたタイムテーブル式にし、児童が使いやすい方を選択できるようにした。「ここで図書館に行こう」と級友と話し合ったり、「この日は親せきと会うからインタビューをしようかな」と、家庭の予定を考慮したりしながら、自分なりの計画表を作ることができた。さらに充実した計画表にするために、活動の途中でアドバイスタイムを設けた【資料７】。児童同士や教職員からのアドバイスをもらうことで、いろいろな視点から計画表を見直すことができ、夏休みに取り組むことが明確になった。ほとんどが家庭での協力を必要とする取り組みであるため、その後の個人懇談でも保護者へ活動の目的とねらいを説明した。また、記録や調べ学習を目的に、全員に１台ずつタブレット端末を貸し出した。夏休みの見通しをもたせることで、２学期からの活動に備えさせることができた。


【資料６　夏休みの計画表】

【資料７　アドバイス】

６　成果と課題
(1) 成果
①　仮説１
・　マンダラチャートを始め、年間計画表や夏休みの計画表などは、児童が自分の目標に向かうために思考を整理したり、活動に優先順位をつけたりする上で有効であった。調べ学習においても、マンダラチャートを見返しながら知識をまとめている姿が見られた。ワークショップやアドバイスタイムによって、級友の考えを尊重したり高め合ったりすることができた。児童の思考を促す手だてとしても有効であった。
②　仮説２
・　多面的な視点での出前授業の実践や体験活動によって、食に対して様々な問題意識をもつことができた。また、「調べてみたい」「やってみたい」という意欲をもたせることもでき、児童の活動の動機づけとして有効であった。
(2) 課題
・　アンケートを紙面でとったために、集計作業にかなりの時間と手間を要した。アンケート調査ソフトを活用して、効率的に調査をするとよかった。
・　マンダラチャートや年間計画が充分に埋まらない児童も見られた。特にマンダラチャートは、児童の知識量によって完成度が変わる。マスをしっかりと埋めることで、夏休みの計画表や年間計画表も充実することが分かった。
・　夏休みの計画表では、事前に家庭で予定を書き込んだ後、計画表を作成する時間を設けるとよかった。
・　児童の個々の活動進捗状況を確認できる掲示板については、２学期以降に取り入れていく。
・　異学年交流として、児童が考えたことや呼びかけたいことを他学年に伝えていく。また、５年生の１年間の学びを４年生と保護者に伝える活動を行っていく。